

第3学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 《目次》

月	主な行事	第3学年				
		題材名	適応			選択
4	・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭	1 3年生になって	◎		----- 8 1	
		2 学級目標を決めよう	○		----- 8 2	
		3 修学旅行の準備		○		
		4 学級組織作り	○		----- 8 3	
		5 自分で選ぶ選択教科		◎		----- 8 4
		6 体育祭に向けて	◎	○		
		7				
5	・生徒総会 ・中間テスト	8 3年生の学習	○	○	----- 8 5	
		9				
		10 何のために学ぶのか	○	◎	----- 8 6	
6	・地区中総体 ・期末テスト	11 学級の充実と改善	◎		----- 8 7	
		12 13 先輩の姿に学ぶ		◎	----- 8 8	
7	・県中総体 ・期末面談 ・終業式	14 一学期の反省	○		----- 8 9	
		15 生き方について考える		◎	----- 9 0	
		16 夏休みの生活設計	○		----- 9 1	
8	・始業式 ・地区陸上大会	17 夏休みの収穫	○		----- 9 2	
		18 二学期の計画		◎	----- 9 3	
9	・地区新人戦 ・中間テスト	19 自分を見つめ直す		◎	----- 9 4	
		20 21 進路先の調査		◎	----- 9 5	
10	・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭	22 学習の課題や悩みの解決	◎	○	----- 9 6	
		23 文化祭の取り組み	◎	○		
		24				
11	・県新人戦 ・（総合「発表会」） ・期末テスト	25				
		26 進路を最終決定する		◎	----- 9 7	
		27 自分の道を切り開く		◎	----- 9 8	
12	・学期反省 ・期末面談 ・終業式	28 進路の手続き		◎	----- 9 9	
		29 二学期の反省	○		(一学期の反省を準用してください)	
		30 冬休みの生活設計	○		(夏休みの生活設計を準用してください)	
1	・始業式	31 冬休みの反省と新年の決意	◎		----- 1 0 0	
2	・期末テスト ・生徒総会	32				
		33 34 勇気を出して自分の道を	○	◎	----- 1 0 1	
3	・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式	35 希望にあふれて	○	◎	----- 1 0 2	
		36 中学校生活のまとめ	○			
		37 上級学校への心構え	○	○		
		38				

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

3年-1 題材名 「3年生になって」

1 目標

- ・3年生としての生活を始めるに当たり、これまでの中学校生活を反省させ、最上級生としての自覚のもと、新たな希望と自信をもって中学校生活の最後の1年を有意義に過ごす心構えをもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 級友とのコミュニケーションを広める。
- イ **感情統制能力** : 2年生までで、不本意だった部分について克服していく。
- ウ **思考能力** : 最上級生としての希望や抱負をもつ。
- エ **意志決定能力** : 最上級生としての自覚や役割を理解し、良きリーダーとして活動する決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 何事にもリーダーとして積極的に全力で取り組み、その成果を適切に評価し、最上級生としての**揺るぎない自信と誇りをもって着実な日常生活を送る**ようにさせる。
- イ 進路の面での3年生の立場を自覚させ、1年間の**学習の重点目標と努力目標を明確にもたせる**。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 始業式や入学式を終え、3年生になった感想を発表する。 各自の3年生にかける希望や抱負、目標を明確にし力強いスタートを切ろう
展開 40分	2 担任の先生の願いを確認する。 ・学級開きの際の、担任の先生の方針を再確認する 3 3年生での学校生活の大きな流れを理解し、それらに対する希望や抱負をもつ。 (1) 1・2年生までの経験を踏まえ、3年生ではどのような学校生活を送るのかを発表し合う。 (2) 1・2年生までの生活を振り返り、3年生での学校生活に対する自分の希望や抱負をはっきりさせる。 4 進路の問題から、3年生の置かれた立場を自覚し、3年生での学習に対する目標を立てる。 ・重点目標 ・努力目標
終末 5分	5 本時の活動をとおして打ち立てた3年生での目標を短冊に清書する。 ・生活の面での目標 ・行事の取組に対する目標 ・学習の重点目標と努力目標

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、最上級生としての喜びの一方で、指導的立場における若干の不安があることを浮き彫りにする。
そして、各自の希望や抱負を明確にし、さらに進路の実現に向けて学習面での目標を打ち立て、3年生の生活を力強くスタートさせるための活動することをテーマとして確認する。

最高学年としての望ましい自覚と誇りをもって、後輩に気迫と思いやりのある援助活動をするように期待していることを確認する。

できるだけ多くの生徒に発表の機会を与え、多種多様な行事や活動を挙げさせる。
挙げられた行事や活動は、年間の流れがわかるように黒板に整理する。生徒には年間カレンダーシートを配付し、各自記入させる。
最終的には、各自の進路の実現に向かって1年間が流れていくことを気付かせる。

人間関係能力、**感情統制能力**、**思考能力** に関する工夫

→ **3年生での生活の流れをつかみ1・2年生までの生活の反省の上になった希望や抱負の明確化**

これまでの学習方法等を客観的に振り返らせ、今後伸ばしたい点や改善点を明らかにし、その対策を練らせる。その上で、学習の重点目標や努力目標を立てさせる。

思考能力 に関する工夫

→ **現状分析に基づいた改善目標の立案**

自分で考えた対策に基づく目標を一字一句清書することで、実行への決意を強化させる。

意志決定能力 に関する工夫

→ **決意の清書**

5 事後指導

- ・本時で考えた3年生での生活や学習に対する希望や抱負を、次時の学級目標設定の活動に生かす。
- ・各自の、3年生での生活や学習に対する希望や抱負、目標を短冊に書かせ、教室に掲示する。
- ・各自の、3年生での生活や学習に対する希望や抱負、目標を通信等でも紹介する。

3年-2 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

- ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。
- イ 最高学年としての立場と役割を自覚させ、学級集団のさらなる連帯強化や向上を図らせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。
- イ **問題解決能力**：中学校生活の最後の年を充実させるために、これまでの経験やみんなの願いを基に、自主的に学級目標を決める。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に「こんな学級がいい！」のカードに各自の思いや願いを書かせ、それを生徒に集計させ、その結果を配付しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。
- イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。
- ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備も生徒に行わせる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 「こんな学級がいい！」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作る
展開 42分	2 学級目標作りに当たっての留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつの内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい！」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定
終末 3分	4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた ・学級や自分の進むべき道がわかる ・学級組織決めも積極的に行う

主な指導と援助

アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。

思考能力に関する工夫

→「こんな学級がいい！」のアンケート集計

学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価可能なものになるようにさせる。
学級開きでの担任方針あいさつの内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。
グループごとに話し合って案を作り、それを全体でまとめていくことを確認する。
司会は、生徒（仮議長）が行う。

グループは、座席をみながら数名で適宜編成する。司会と発表者も適宜指定する。
その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。

問題解決能力に関する工夫

→グループでの話し合い

各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの形にしていく。

問題解決能力に関する工夫

→全員での話し合い

学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。
次の学級組織作りの活動につなげる。

思考能力に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定させた学級目標を、通信等で紹介する。
- ・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

3年-4 題材名 「学級組織作り」

1 目標

- ア 「学級目標」に沿った学級作りをするための学級組織の在り方（学級経営の基盤であり人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方）を考えさせ、全校や学年の生徒会活動との関連を踏まえながら、活発に活動できる学級組織を作らせる。
- イ 組織は、構成員の協力がなければ機能しないということを認識させ、責任をもって役割を遂行しようとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **問題解決能力**：中学生生活の最後の年を充実させるために、これまでの経験やみんなの願いを基に、自主的に学級組織を決める。
- イ **意志決定能力**：最上級生として集団活動を積極的にリードし責任を果たす決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標決定後に、自分がやってみたい役職を考えさせておく。その際、学級目標のねらいを踏まえさせる。
- イ 個々の生徒が思いやりと責任をもって活動しようとする雰囲気を作る。また、特定の生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。
- ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備も生徒に行わせる。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	<p>1 学級目標とその願いを踏まえ、その実現を目指す学級組織を作ることを確認する。</p> <p>「学級目標」を実現していくために各自の願いが反映された学級組織を作ろう</p>
展開 40分	<p>2 学級組織作りについての留意点を確認し、進め方について決定する。</p> <p>(1) 学級組織作りについての留意点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒会とのかかわり ・学年生徒会とのかかわり <p>(2) 学級組織作りの進め方について決定する。</p> <p>ア 役員の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決める役職の順番 ・候補者の擁立と決定の仕方 ・候補者が重複した場合の決定の仕方 <p>イ 班や当番の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の構成と班員の決定の仕方 ・座席の決定の仕方 ・清掃区域や給食当番の割当の仕方 <p>ウ 係活動の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な係の種類 ・係員の決定の仕方 <p>3 学級組織作りの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級組織作りについての留意点や進め方に沿って決定する
終末 5分	<p>4 決定した学級組織を確認し、組織の中での自分の役割について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織が機能するように責任を果たす ・学級目標の達成に向けてみんなと協力して活動する

主な指導と援助

学級目標を全員で復唱し、それに込められた願いを確認する。学級目標を実現するための学級組織はどうあればよいかをグループで考えさせ、発表させる。

問題解決能力 に関する工夫

→グループでの話し合い

学級で選出すべき役員や委員などが全校や学年の組織とどのようにかかわっているかを示した組織図を用意し、それに沿って確認する。
役員や委員などが決定したら、組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて（短冊を作って貼り付ける）学級掲示に生かす。

話し合いによって、学級組織作りの進め方について決定していく。
司会は、生徒（仮議長）が行う。
話し合いをとおしてみんなが共通理解することによって協力が生まれ、守られていくことを確認する。

役員の決定については、組織図を基にしながら考えさせる。
候補者の擁立については、事前にやりたい役職を考えさせているので、意欲を優先し立候補を原則に進めるように導く。

意志決定能力 に関する工夫

→立候補を原則とすること

係活動の決定については、生徒の意見やアイデアを学校の教育活動の中で最大限尊重することによって意欲をもたせ、活動を活発にさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→係活動のアイデア

問題が生じた際は、その都度話し合いによって解決する。

問題解決能力 に関する工夫

→話し合い活動

希望とは異なった役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、明るく楽しい学級となるように活動する決意をもたせる。

意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて（短冊を作って貼り付ける）学級掲示に生かす。
- ・決定した役員や委員・係等を、通信等で紹介する。

3年-5 題材名 「自分で選ぶ選択教科」

1 目標

- ア 選択教科のねらいを確認し、自校の3年生での選択教科の種類や授業時数などについて知らせ、選択教科への関心を高める。
- イ 3年生での選択教科の選択の仕方について理解させるとともに、1・2年生での選択教科の選択の経験を生かして将来をも見据えた広い視野での選択をさせ、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** や **問題解決能力** : 1・2年生時の選択教科の選択理由を振り返り、学習の満足度を考えた上で、どのような選択が自分にとってよいのかを決める。
- イ **意志決定能力** : 自らの意志で選択した教科に意欲的に取り組む決意をもつ。
- ウ **情報選択能力** : 選択教科のねらいや教科の種類、授業時数等から選択の可能性をとらえる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学年合同での学級活動** とし、**選択教科担任の協力を得ながら** 選択教科の学習のあらましを理解させると共に、どの教科が自分にとってよいのかを考えさせ、学習への動機付けを明確にさせる。
- イ 選択の考え方の例として、**卒業生の先輩の体験談**を生かし、それを基に**討論したり個別相談したりする**。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 3年生の選択教科のあらましを知り、選択の仕方について考えることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 選択教科のあらましと、適切な選択の仕方について知ろう </div>
5分	
展	2 選択教科のねらいと、自校の3年生での選択教科の種類や授業時数、選択の仕方などについて、教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択教科のねらい ・選択教科の種類と授業時数、教科担任 ・選択の上での留意点 ・選択教科決定の手順 3 各選択教科の学習内容や学習方法、必要な経費や物品などについて、教科担任の先生からの説明を聞く。 ・学習内容や学習方法 ・必要な経費や物品 ・適正人数
開	4 卒業生の先輩の体験文読む。 ・選択教科の選択の理由 ・その選択教科を学んでの感想
38分	5 選択教科の説明を聞いて、選択教科の選択に当たったの考え方について、討論したり、個別相談したりする。
終末	6 どんな考えでどの教科を選択するかを、各自でまとめる。 ・希望する教科とその理由・決意 7 (第二希望まで) ・選択に当たったの要望
7分	

主な指導と援助

1・2年生の時の選択教科の選択で、よかったことやよくなかったことを出し合う。
 3年生の選択教科の選択に当たって、よりよい選択の在り方について考えることを、活動テーマとすることを確認する。

学年の学習担当の先生が司会する。
 選択教科の開設状況についての資料を用意し、それに基づいて説明する。
 選択教科申込用紙の記入の仕方と共に、決定までの手順についても説明する。
 状況によっては第1希望通りにならないこともあること、正式決定までの間に2単位時間程度試行機会をおくことや随時教育相談を行うことを付け加えておく。

「選択教科」の関連資料

すべての選択教科の概要を一覧表にした資料を用意し、それに沿って説明する。
 教科担任の先生が、独自に資料や授業風景などの写真を用意して説明してもよい。

情報選択能力 に関する工夫

→教科担任の協力

選択時の考えや、学習終了時の感想を書かせておいたものをプリントして配布する。
 開設されているすべての選択教科についての資料を配付する。

情報選択能力 に関する工夫

→先輩の体験文

討論は、選択の仕方(組み合わせ)の可能性の面から行わせる。
 討論でも不明確な点は個別に相談させる。

思考能力 及び 問題解決能力 に関する工夫

→選択の在り方についての討論や個別相談

選択教科の選択について、自分の考えや気持ちを整理し、選択教科申込用紙にまとめさせる。

意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作業

5 事後指導

- ・正式決定までの間の試行機会や、随時の教育相談を利用し、より適切な選択をさせる。

3年—8 題材名 「3年生の学習」

1 目標

- ア 3年生の学習は、中学校での学習の総仕上げとして調和のとれた学習を進めることを第一義とするという意識をもたせる。
- イ これまでの学習方法等を振り返らせ、今後伸ばしたい点や改善点を把握させて、学習の充実を図らせる。
- ウ 学習や諸活動に対する重点目標、諸活動とのかかわりを踏まえた学習計画を立てさせ、3年生での学習や活動への見通しと意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応・選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** や **問題解決能力** : これまでの学習方法を振り返り、今後伸ばしたい点や改善点を明らかにし、その方策を決める。
- イ **意志決定能力** : 3年生での学習を、中学校の学習の総仕上げとしてとらえ、計画的に取り組む。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **3年生の学習に対する疑問や悩みに関する事前アンケート**の実施し、資料化する。
- イ **教科係に、3年生での学習への取り組みの心構えや留意点について、各教科担任から取材**させる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 3年生の学習に対する疑問や悩みのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 3年生としての学習の心構えについて考え、自分に合った年間学習計画を立てよう
展開 42分	2 3年生としての学習の心構えについて考える。 (1) 1年間の学習や進路選択についての流れを確認する。 ・先生からの説明を聞く (2) 教科係が各教科担任から取材してきた、3年生での学習の心構えや留意点を聞く。 ・ワークシートにメモをしながら聞く (3) 3年生での学習の心構えについて、学級全員に共通する事項を確認し、話し合う。 ・授業を大切に ・毎日の学習（家庭学習も）を充実させる 3 3年生での学習を充実させ、効率よく進めるためのポイントについて班で話し合う。 ・教科や諸活動の重点目標を設定する ・自分に合った年間学習計画を考える ・自分に合った生活リズムを確立する
終末 3分	4 本時の活動で学んだことを基に、年間学習計画表作成に向けての決意を高める。 ・ムリ、ムダ、ムラのない具体的な計画に ・中学校の総仕上げの学習になるように ・毎日の授業や家庭学習を大切に

主な指導と援助

受験や進学に関する不安、効果的な学習の仕方、学習への意欲等についての悩みを抱えている仲間が多いことを把握させ、3年生としての学習への心構えや年間の学習計画を考えることを、活動テーマとすることを確認する。

3年生の学習に対する疑問や悩みのアンケート

3年生での行事定表等を活用し、1年間の学習や進路選択についての流れを把握させる。
3年生の学習は、中学校の学習の総仕上げであり、その過程の中に受験が位置していることを説明する。

次のようなねらいから、共通の取材内容項目を設定して取材させておく。教科担任とも連携を図っておく。
①各教科に共通する心構えや留意点について考えやすくする。
②各教科（特に、自分が不安や悩みを抱えている教科）の学習の心構えや留意点をとらえやすいようにする。

思考能力 に関する工夫

→各教科担任からの取材を基に学習の改善点を考える

ワークシートのメモを基にしながら共通する事項を確認する。

問題解決能力 に関する工夫

→学習の心構えについて学級全員での話し合い

導入で提示したアンケート結果のうち、効果的な学習の仕方や学習への意欲等の問題を基に、これまでの学習で良かった点や悪かった点、今後伸ばしていきたい点等を具体的に考えさせ、目標設定や計画的な取り組み、それを支える生活リズムの確立の大切さに気付かせる。

問題解決能力 に関する工夫

→効果的な学習についての班での話し合い

年間学習計画表の作成は宿題とする。
数名に、年間学習計画表作成に向けての決意を発表させる。

意志決定能力 に関する工夫

→年間学習計画作成に向けての決意表明

5 事後指導

- ・宿題の年間学習計画表は、提出後に点検や助言をし、継続的な相談活動に生かす。
- ・良い計画表を通信等で紹介する。

3年-10 題材名 「何のために学ぶのか」

1 目標

- ア 学ぶことの意味について視野を広げて考えさせ、生涯学習の意義に触れ、一生学び続けていく姿勢を醸成させる。
- イ 学び続けようとする意欲や姿勢は、その人の生き方と密接に関連していることを理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：学ぶことを、自分の生き方から見つめ直し、逃避や怠惰の心に立ち向かう。
- イ **思考能力**：学ぶことの意味を考える。
- ウ **意志決定能力**：一生学び続ける意志をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「今、どんな理由で学んでいるか」のアンケートを実施し、資料化する。
- イ 「学ぶことについて」のアンケートを実施し、資料化する。
- ウ 学ぶ目的について**班で話し合い**、自分の生き方を豊かにするための学習というとらえを再確認させる。
- エ 身近な地域の**生涯学習実践者**から、「学習に対する考え方」を取材させ、資料化しておく。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「今、どんな理由で学んでいるか」のアンケート結果を確認し、活動テーマを知る。 人は何のために学ぶのか、中学校3年生の立場で「学ぶ目的」について考えよう
3分	
展開	2 「人は何のために学ぶのか」をテーマに、班毎に話し合い、発表をする。 (1) 「今、どんな理由で学んでいるか」や「学ぶことについて」のアンケート結果をヒントにして班毎に話し合い、発表する。 ・生きていく上での知識や技能を身に付ける ・自分自身や人生を豊かにする (2) 各班の発表に対して、質問をする。 (3) 先生からのアドバイスを聞く。 3 生涯学習の意味を知る。 ・先生の説明を聞き、ワークシートに記入する 4 生涯学習実践者の方から取材してきた「学習に対する考え方」を聞く。 ・学ぶことを楽しんでいる ・学ぶことで自分を高めている ・学ぶことに終わりはない
40分	
終末	5 本時の活動を振り返り、中学校3年生としての「学ぶ目的」について、現在の自分の学習状況を踏まえながらどう考えていくかまとめる。 ・将来の自己実現への大事な活動 ・社会に出てからの生活の基礎 ・生涯にわたって学び続ける基礎
7分	

主な指導と援助

学ぶ理由として受験や進路のため等、さまざまな理由が挙げられていることを把握させ、義務教育最終学年の立場から「学ぶ目的」について考えることを、活動テーマとすることを確認する。

「今、どんな理由で学んでいるか」のアンケート

「学ぶことについて」のアンケート中の、学んで身に付いたこと、学んで良かったこと、今後学びたいこと等の視点から考えるように助言する。

思考能力に関する工夫

→班での話し合い

学生の時だけが学ぶ時期ではないことを確認する。

生涯学習とは、「生涯にわたって自分で学んでみようというものを見つけ、それに適した方法で継続的に行う学習」である。学校での学習は、社会に出てからの基礎となっていることを確認させる。

場合によっては、ビデオ撮影してきたものを提示したり、ゲストティーチャーとして来校していただいて実際に話をしてもらおう。その際、学ぶ喜びに力点を置いて話していただく。

意志決定能力に関する工夫

→生涯学習実践者から、「学習に対する考え方」を聞く

学ぶことに終わりはないことを確認し、自分の将来の生き方と結びつけながら、積極的な学習に努めるように励ます。

感情統制能力に関する工夫

→「学ぶ目的」を自分の学習状況を踏まえて考える

5 事後指導

- ・感想文を通信等で紹介し、保護者の方々にも理解をいただきながら、家庭での励ましをお願いする。
- ・生涯学習の実践者の方から取材してきた「学習に対する考え方」も通信等で紹介し、進路コーナーにも掲示する。

3年-11 題材名 「学級の充実と改善」

1 目標

- ・時期的に停滞気味になりがちな学級の活動（班や係の活動等）を反省・改善させ、役割と責任を意識させてよりよい学級を作っていこうとする心構えをもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ・ **思考能力** や **問題解決能力**、**意志決定能力**：学級での活動を再点検し、問題点をあげて、その解決策を考え、よりよい学級を作っていく。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級の諸活動（班や係の活動）チェックリストで活動の点検をし、資料化する。
- イ **3年生スタート時の学級や個人の目標を基に、今を振り返らせる。**
- ウ **他の班からの班活動の改善や要望や提言をブレインストーミング法で話し合う。**

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 このごろの学級の様子や雰囲気について、感想を述べ合い、活動テーマを確認する。 学級の諸活動について振り返り、課題を改善して、今後の学級の諸活動を充実させよう
3分	
展開	2 学級の諸活動のチェック結果を知り、学級の多くの仲間が考える問題点は何かを確認する。 ・学級全体にかかわる問題点 ・班や係にかかわる問題点 3 学級全体及び班や係の問題点の原因について班毎に話し合い、学級で確認する。 ・緊張感や変化、刺激がなくなって、漫然と日々を送っている ・なれ合いが生じて、規律がゆるみ、真面目さが薄れた ・人間関係（男女関係）がぎくしゃくしてきた 4 問題点の解決に向けての話し合いの方法について先生からの説明を聞く。 ・ブレインストーミング法 5 学級全体及び班や係の問題点の解決法について、班毎にブレインストーミング法で話し合い、発表する。 ・よりよい学級の在り方を目指し、考えつくままに活発に意見を出し合う
40分	
終末	6 発表された意見を集約し、具体的にどうしていくか、全員で確認する。 ・学級全体で取り組んでいくこと 7 ・各班や係で取り組んでいくこと ・各個人が留意していくこと
7分	

主な指導と援助

数名に発表させる。学級役員や班長等に感想を述べてもらうことも考えられる。

学級目標や班の目標に照らし合わせて振り返らせる

評価の芳しくない事項を問題点として順次挙げさせ、学級全体にかかわる問題か、班や係にかかわる問題か分類させる。

思考能力 に関する工夫

→学級の諸活動の再点検と問題点のピックアップ

特定の班や係の非難に走らないように留意させる。
3年生スタート時の意欲が薄らいできていることに気付かせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学級の諸活動の問題点の原因考察

〔ブレインストーミング法の原則〕

①出されたアイデアに対する批判厳禁

②自由奔放に発言する

③より多くのアイデアを出し合う（質より量を求む）

④多くのアイデアが出されていく過程で、それらのアイデアを組み合わせて改善し、より一層発展させたアイデアを生み出していく（付け足し大歓迎）

司会者と記録者を決めて話し合う。
問題点の原因毎に、解決法を出し合い、まとめる。

問題解決能力 に関する工夫

→ブレインストーミング法による話し合い

学級の全員が、解決に向けて行動できるような視点で考えていくように助言する。
最後に、学級全員で解決に向けて努力していくことを確認する。

意志決定能力 に関する工夫

→よりよい学級にしていくために全員で確認

5 事後指導

- ・新しい活動目標や活動内容、活動計画を作成する。掲示物なども刷新する。
- ・必要に応じて組織の改編及び、役員・班や係のメンバーの刷新をする。

3年-12・13 題材名 「先輩の姿に学ぶ」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 先輩の進路選択や決定の事例をとおして、将来の生き方や希望する職業に基づいた進路学習の大切さを再認識させる。
- イ 自分の進路を自信と希望をもって切り開いていくために、どういう心構えや準備が必要かを考えさせる。
- ウ 進路選択のための6つの段階を自分に当てはめ、進路計画等の検討・改善を図らせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** : 自信と希望をもって進路を切り開いていくための心構えと準備について考える。
- イ **意志決定能力** : 自分の問題として進路の問題に取り組む。
- ウ **情報選択能力** : 先輩のメッセージから、自分の進路選択に必要な条件等をひろい出す。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学年合同で「先輩と語る会」**を実施する。**保護者の参加**も積極的に呼びかける。
 (注) 招聘する先輩としては、次の理由により、各上級学校の第2学年の生徒から人選する。人数は、各上級学校から2名が望ましい。
 - ・上級学校での生活が1年数ヶ月を経過し、学校の様子により詳しくなっている。
 - ・現在の中学校3年生にとって、中学校入学時の3年生にあたり、大きな影響を受けている。
- イ 事前学習として、進路選択に必要な条件（6つの段階）をまとめ、自分に当てはめさせ、不足していることや「先輩と語る会」でつかむべきことを焦点化させておく。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「先輩と語る会」の趣旨を含め、校長先生からのあいさつを聞く。 先輩方から、進路決定までの体験談や各上級学校の様子を聞き、進路選択の参考にしよう
5分	
展開	2 各先輩から、進路決定までの体験談や進学先の各学校の様子を聞き、質問をする。 (1) 各上級学校の先輩の発表を聞く。 (2) 発表を聞いて、自分の進路希望と照らし合わせながら考えを深めたり、質問したりする。 ・高等学校（公立・私立） ・高等専門学校 ・専門学校・各種学校
90分	3 先輩の発表では分からなかったことについて全体をとおして聞きたいことを質問する。 ・各上級学校の様子から ・先輩の、中学時代の進路への取り組みから
5分	
終末	4 代表の生徒が、感想を含めてお礼の言葉を述べる。 ・進路の決定までの心構えや努力事項 ・各上級学校の様子について分かったこと ・自分の進路計画の見直しに生かすこと

主な指導と援助

司会進行は、学年の進路担当の教師が行う。渉外関係は学年主任が中心となって進める。
学年合同での「先輩と語る会」の実施

各先輩に順番に発表してもらう。事前準備や開催条件によっては、ポスターセッション形式で進めることも考えたい。少人数に分かれて各先輩から聞くことができるので、効果が上がると考えられる。
情報選択能力 に関する工夫
 → 「先輩と語る会」

事前に、各上級学校の概要を調査させたり、自分の進路計画を作成させて、「語る会」の際の質問項目を考えさせておく。
思考能力 に関する工夫
 → 「先輩と語る会」の事前準備

先輩の発表から学んだこと、取り入れたいことを、ワークシートに記入させ、代表の生徒数名に発表させる。
意志決定能力 に関する工夫
 → 「先輩と語る会」を終えての感想と決意

5 事後指導

- ・先輩の発表要旨や3年生の感想を、通信等で紹介する。
- ・事前に作成した自己の進路計画の修正や改善をさせるなどし、継続的な進路相談に生かす。
- ・夏休み中の高校体験入学への動機付けを図ったり、二学期の高校説明会への橋渡しとなるよう資料を整備する。

3年-14 題材名 「一学期の反省」

1 目標

- ア 一学期の学年と各学級の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二学期の生活につなげる。
- イ よりよい学級、学年の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：一学期の学年と各学級の諸活動の成果と課題を確認し合う。
- イ **問題解決能力**：課題点や方向性を踏まえ、よりよい学級、学年にするために取り組んでいく事項を確認する。
- ウ **意志決定能力**：話し合いの決定事項を、二学期に、学年や各学級の活動で実行するよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学年執行部が中心となり、学年や各学級の活動結果をまとめた議案書を用意し、事前に配付して集会に臨ませる。
- イ 学級での話し合いは、短学活の時間や放課後に行わせる。
- ウ **学年集会の形**をとり、学年執行部や各学級の活動について質疑を交わしたり相互評価したりさせる。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 学年生徒会長が、本時の学年集会の内容やねらい等について説明し、みんなで確認する。 一学期の各学級の活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二学期の活動につなげよう
3分	
展開	2 月目標の取り組みの成果と課題について、学年執行部からの発表を聞く。 ・各月毎の取り組みの成果と課題
	3 学年執行部の発表に対する質問や意見を述べ合う。 ・月目標の取り組みの成果と課題に対する質疑
	4 二学期の月目標の取り組みの方向性について、学年執行部の提案を聞く。 ・一学期の課題を踏まえた提案
	5 学年執行部からの提案内容について討議し、学年としての二学期の取り組みの方向性を確認する。
	6 各学級毎に、一学期の学級の取り組みの成果と課題、二学期に向けての方向性を発表する。 ・生活面、学習面、行事面での成果と課題、方向性
	7 各学級の発表に対する質疑や意見を述べ合う。 ・各学級の一学期の成果と課題に対する質疑 ・各学級の二学期の方向性に対する意見
	8 学年として共通に取り組んでいくべき事項を確認する。 ・一学期の課題と二学期の方向性の中から
	9 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなで学年や学級の活動を向上させていくことを確認し合う。 ・二学期の学年や学級の活動への期待や希望 ・みんなで協力していこうという気持ち
3分	
10 先生からの講評を聞く。	
終末	

主な指導と援助

司会進行は、学年執行部または学年議長が行う。事前に、進行についての練習や、関係者との打合せをしておく。

学年集会による一学期反省

事前の分担にしたがい、学年執行部の担当者が議案書を利用して簡潔に発表する。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。

学年の活動のすばらしさや学年執行部の頑張りに気付かせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の学年の活動や学年執行部のへの賞賛

学年執行部の担当者が議案書を利用して簡潔に発表する。提案の理由を大事にさせる。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

事前の役割分担に基づいて、各学級の担当が発表する。各学級毎に、一学期の生活面、学習面、行事面の成果と課題、二学期の方向性を、議案書を利用して簡潔に発表する。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。一つの学級について6番と7番の活動を行い、その次に別の学級について6番と7番の活動を行う方法でもよい。

各学級の活動のすばらしい点を学び合う視点をもたせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の各学級の活動の成果と課題への賞賛

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

学年執行部が、話し合いの決定事項を読み上げる。学年執行部と各学級に対し、互いにエールを贈り合う。時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・話し合いの決定事項は学年執行部の通信で、話し合いの様子については学年通信等で紹介する。

3年-15 題材名 「生き方について考える」

1 目標

- ア いろいろな角度から将来の希望職業と希望理由について検討させ、自分の生き方と結び付けさせる。
- イ 働くことの意味について再確認させることで、各自の職業観や勤労観、生き方に対する考えを深めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：希望職業と希望理由を考え、その職業について検討する。
- イ **問題解決能力**：自分の希望する職業に就くための進路計画等の検討・改善を図る。
- イ **意志決定能力**：職業生活をとおして自己実現を目指すよう決意する。
- ウ **情報選択能力**：働くことの意味を再認識する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分の将来の生き方や希望職業の上に立った進路選択を考えさせる。
- イ **働く目的について、「中学生活と進路」pp. 24-25の「なぜその職業、その進路を選ぶのか」を基に「ロールプレイ」をとおして考えさせる。**ロールプレイは事前に練習しておく。
- ウ **職業人としての生き方の実例を紹介し、**職業生活をとおした自己実現について考えさせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 自分の希望する職業とその理由についてのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 希望職業とその理由について考え、働くことの意味を見直して、生き方に結び付けよう
展開	2 自分の希望する職業について、どの位知っているかを、次の三点からチェックする。 ・その職業の仕事の内容 ・その職業への適性や、求められる資格 ・その職業に就くまでの道筋 3 自分はどんな生き方を希望しているのかをチェックする。 4 働く目的（働くことの意味）について、ロールプレイをとおして考える。 (1) ロールプレイを見た感想を発表する。 (2) 質問や意見を取り、協議する。
展開 40分	(3) 働く目的（働くことの意味）について、自分の考えをまとめる。 5 実際に働いている人から取材してまとめた「職業人としての生き方の実例」の資料を読み、感想や自分に取り入れたいことをまとめる。
終末 5分	6 本時の活動で学んだことを基に、自分の進路計画の検討点、改善点を考える。 ・希望職業についてもっと調べるべきこと ・自分が望む生き方をはっきりさせること ・働くことの意味をはっきりさせること

主な指導と援助

希望する職業とその理由が多岐にわたっていることを把握させ、希望職業や働く目的について考えて自己の生き方に結び付けることを、活動テーマとすることを確認する。

自分の希望する職業とその理由のアンケート

各自、ワークシートに記入する。
書けないからといって時間をかけ過ぎないようにする。むしろ、自分の希望する職業についてまだ不明なことが多いことに気付かせる。

思考能力に関する工夫

→自分の希望する職業の検討

現代の社会は価値観が多様化しており、いろいろな考えがあることを補足する

演技者には、事前練習の際に、演技の後で質疑の時間をとることを伝え、あらかじめ心づもりをさせておく。
聞き手は、各自メモをとりながら演技を見るように指示する。

情報選択能力に関する工夫

→働く目的についてのロールプレイ

場合によっては、VTR等での提示を工夫する。
職業人としての生き方の一端をつかませる。

意志決定能力に関する工夫

→「職業人としての生き方の実例」の感想

将来の職業生活とその人の生き方は密接不可分の関係であることを確認する。
進路計画の実際の検討・改善作業は、宿題とする。

問題解決能力に関する工夫

→自分の進路計画の検討点、改善点の明確化

5 事後指導

- ・自分の進路計画の検討と改善を行わせる。必要に応じて、個別の相談を行う。
- ・自分の希望する職業について、不明な点を各自で調べさせる。
- ・「職業人としての生き方の実例」にしたがって、身近な人々等からも職業観や労働観、生き方について取材させる。

3年-16 題材名 「夏休みの生活設計」

1 目標

- ア 一学期間の生活の反省に立って、中学生としての最後の夏休みの在り方を考えさせる。
- イ 夏休みの意義や夏休みの生活のきまり、夏休み中の行事などを確認させ、夏休みを有意義に送るようにさせる。
- ウ 夏休みの生活と学習の目標を明確にし、それを実現させるための計画を立てさせて、実行する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：不規則・不摂生な生活や、過度に心配して不安定な生活にならないように心掛ける。
- イ **思考能力**：1、2年生での経験や一学期の反省に立ち、夏休みをどう送るべきか考える。
- ウ **問題解決能力**：有意義な夏休みにするため、しっかりした目標のもとに計画を立てる。
- エ **意志決定能力**：計画に沿って有意義な夏休みを送る気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学年で取り組んだ、一学期の反省を踏まえさせる。
- イ 夏休み中の主な行事予定は、生徒会で一覧にして配付する。
- ウ 夏休み中の学習課題等については、教科係が教科担当に確認し、一覧にして配付する。
- エ 「夏休みの生活のきまり」や「高校体験入学」については、教師から説明する。学年合同での実施も考える。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 夏休みを迎えるにあたって、どんな気持ちでいるか発表する。 中学校生活最後の夏休みを充実したものにす るためにしっかりした生活設計を立てよう
展開	2 夏休みの意義について先生の説明を聞く。 ・進路の実現に向けて力を蓄える時である
	3 1、2年生での夏休みの経験や、一学期の学 年の反省を踏まえ、有意義な夏休みするには どうすればよいか班毎に話し合う。
	4 夏休み中の主な行事や生活のきまり、高校体 験入学での留意点について、先生の説明を聞く。 ・関係資料を配付
	5 夏休み中の学習課題について、各教科係から の説明を聞く（課題がない場合は割愛する）。 ・課題の一覧表を配付
	6 5番までの説明や話し合いを踏まえて、夏休 みを迎えるに当たっての留意点を発表する。 ・大事な夏休みである
	7 夏休みの計画表作りをする。 (1) 生活と学習の目標を決める。 (2) 計画表作りを進める。
	7分
終末	
5分	

主な指導と援助

数名に発表させる。
楽しみ半分、進路に向けた学習の不安が半分といった状況を確認し、有意義な夏休みにするための生活設計を考えることを、本時の活動テーマとする。

夏休みの意義①社会的体験の拡充、②苦手な教科の克服や得意教科の伸長、③部活動の充実、④健康や体力の増進 等

1、2年生での経験については、思い通りにいかなかった時のことだけでなく、思い通りにいった時のことも踏まえさせる。

思考能力 に関する工夫
→有意義な夏休みにするための班毎の話し合い

「夏休みの生活のきまり」の中でも、健康や安全にかかわる事項は確実に指導する。
「高校体験入学」については、体験の目的やマナーについて、確実に指導する。
適宜質問を受け付けて、指導の徹底を図る。

5番までの説明や話し合いを踏まえ、夏休みを迎えるに当たっての留意点をしっかりと意識させて、計画作りをさせる。

感情統制能力 に関する工夫
→夏休みの生活のきまりや課題等の自覚

作成の仕方は、1、2年生の経験を踏まえさせる。具体的で評価が可能な目標、実行が可能な計画となるよう、留意させる。

問題解決能力 に関する工夫
→目標を明確にした上での計画表作り

全員に発表させて、各自のがんばりを誓い合わせる。
最後に、教師が生徒全員へのエールの言葉を述べる。

意志決定能力 に関する工夫
→夏休みの目標を発表し合う

5 事後指導

- ・夏休みの計画表を完成させて提出させ、激励、修正等のコメントを入れる。
- ・期末面談の中で、計画表を基にして夏休みの生活について話し合い、確認する。
- ・高校体験入学に関して、必要に応じて個別指導する。

3年-17 題材名 「夏休みの収穫」

1 目標

- ア 夏休みの生活と学習の目標を、夏休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 夏休み中の行事等で感じたことや学んだことを発表させ、共有化させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：夏休みの生活や学習が本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。
- イ **思考能力**：夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 夏休みの計画表を活用する。
- イ 夏休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 夏休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 中学校生活最後の夏休みを振り返り、成果と課題を確認し合おう </div>
展開	2 夏休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題
	3 夏休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・ピア・カウンセリングの手法を取り入れて、互いの夏休みの成果と課題を振り返ることを知る
	4 夏休みの計画表を基にしながら、「夏休みの反省用紙」にしたがって各自で夏休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント）
	5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） ・クライアントの成果や課題に対して、アドバイスや励ましを記入する
	6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーがどんな思いでコメントを書いたかよく考える ・自分の思いや感想を記入する
	7 ピア・カウンセリングを取り入れて夏休みを振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・頑張ったことを認めてもらってうれしい ・不本意だったのは自分だけでなかった ・新しい気持ちで二学期をスタートできそう
終末	
3分	

主な指導と援助

数名に発表させる。
 有意義な夏休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の夏休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担当が提出状況を確認する。
 教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

カウンセラーになって、級友の夏休みの成果と課題にアドバイスや励ましを考えさせる。
 （約束事）
 ・否定的なこと、人がいやがることは書かない
 ・秘密は絶対を守る
 ・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

夏休みの成果と課題を素直に記入させる。
 反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
 反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

思考能力 に関する工夫

→夏休みの計画に沿った振り返り

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
 落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
 書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
 自分のマークの付いた反省用紙を間違えずに持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
 ・成果や課題を書いたときの気持ち
 ・成果や課題にアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
 ・回答を読んだときの気持ち

数名に発表させる。
 仲間を信じて、前向きに二学期を歩んでいくように促してまとめる。
 「夏休みの反省用紙」に氏名を書かせて提出させる。

感情統制能力 に関する工夫

→ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし

5 事後指導

- ・夏休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・2年生時にも同様のアンケートを実施していたならば、それらと比較して成長点を賞揚する。
- ・必要に応じて個別の相談や指導に生かす。